

【報道関係各位】

2017年12月7日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2018年春の花粉飛散予測(第2報) 東北、関東甲信、四国地方は前シーズンの1.5倍以上！ 早めの対策を

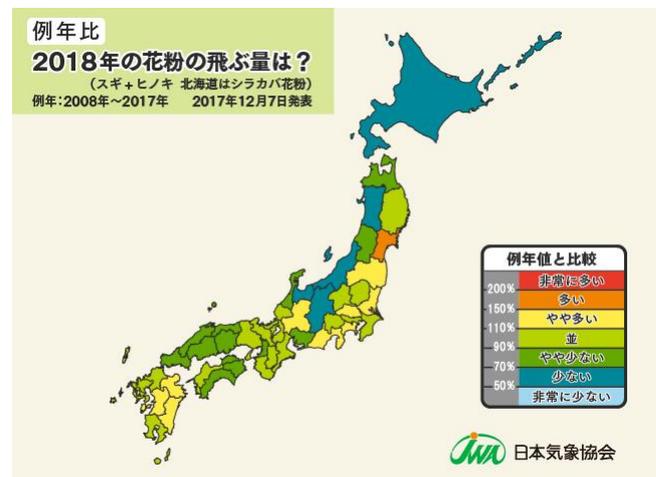
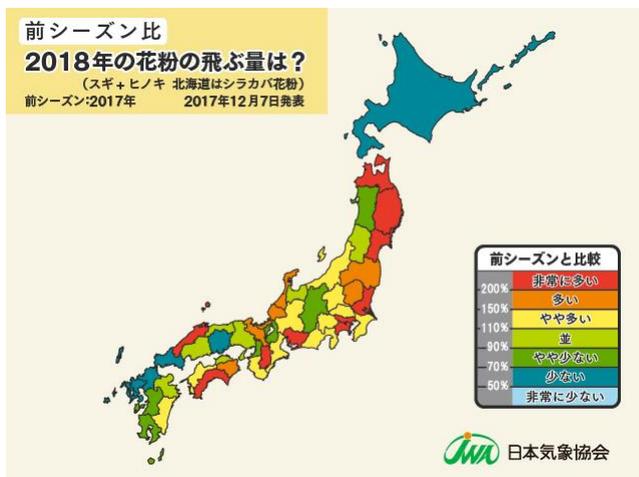
◆2018年 春の花粉飛散予測のポイント (2017年12月7日 発表)

- ・東北、関東甲信、四国地方では前シーズンの1.5倍以上
- ・各地のスギ花粉の飛散開始時期は例年並み
- ・飛散開始*前からわずかに飛び始めるため、早めの対策が必要

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己）は、2017年12月7日（木）に全国・都道府県別の2018年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第2報）を発表します。また、詳細な情報を、「2018年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。
※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

1. 2018年シーズンの花粉飛散傾向

2018年春の花粉飛散予測は、東北から近畿、四国地方までの広い範囲で、前シーズンの飛散量を上回る見込みです。東北から中国、四国地方には、「非常に多い」飛散量の都道府県があり、注意が必要です。一方、例年比でみると、東海地方ではやや多く、東北と関東甲信、近畿、九州地方では例年並みとなるでしょう。北海道、北陸、中国、四国地方では例年を下回る見込みです。



東京都西多摩郡奥多摩町の花芽の様子 (2017年11月22日撮影)



京都府京都市西京区の花芽の様子 (2017年11月15日撮影)



兵庫県姫路市の花芽の様子 (2017年10月31日撮影)



2. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量 (地方平均値%)		2017年夏(6~8月)の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない (60%)	少ない (50%)	平年並	多い	平年並
東北	例年並 (100%)	多い (190%)	平年並	多い	平年並
関東甲信	例年並 (100%)	多い (150%)	高い	少ない	平年並
北陸	やや少ない (70%)	やや多い (130%)	平年並	かなり多い	多い
東海	やや多い (110%)	やや多い (120%)	高い	少ない	多い
近畿	例年並 (90%)	やや多い (110%)	高い	平年並	多い
中国	やや少ない (80%)	前シーズン並 (90%)	高い	平年並	多い
四国	やや少ない (80%)	多い (150%)	高い	平年並	多い
九州	例年並 (100%)	やや少ない (70%)	高い	少ない	多い

【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い : 前シーズン (例年) の 200% 以上
 多い : 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
 やや多い : 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
 前シーズン(例年)並 : 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
 やや少ない : 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
 少ない : 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
 非常に少ない : 前シーズン (例年) の 50% 未満

前シーズン : 2017 年シーズン飛散量
 例年 : 過去 10 年(2008~2017 年)の平均値

【2017 年夏の気象に関する言葉の説明】

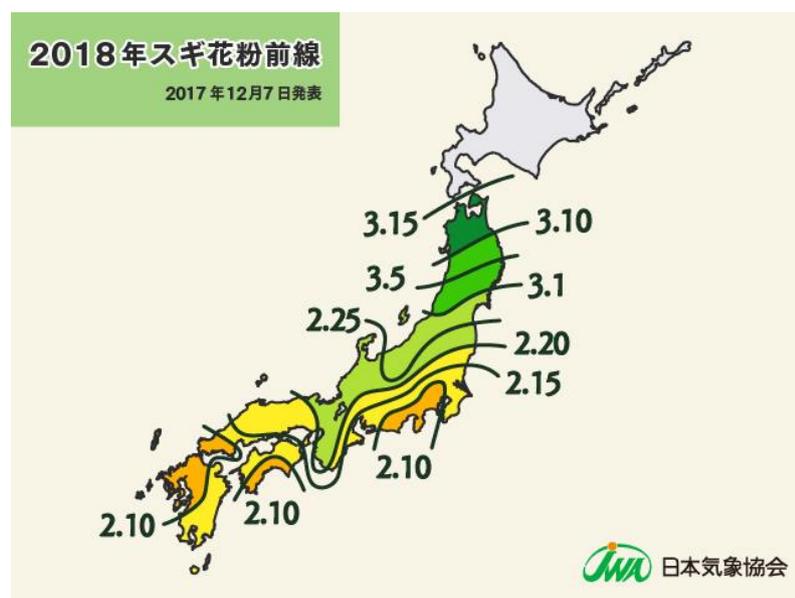
平年 : 1981~2010 年の平均値

3. 2018年シーズンの飛散開始時期

2018年春のスギ花粉の飛散開始は、例年並みとなるでしょう。2月上旬に九州や中国、四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンが始まる見込みです。

2018年の1月から2月は、北日本では平年並みか平年より高く、東日本と西日本は平年並みの気温となるでしょう。この時期の気温が平年より高いとスギ花粉の飛散開始は早まる傾向となりますが、2018年春のスギ花粉の飛散開始は全国的に大きく早まることはなく、例年並みとなる見込みです。

ただし、スギ花粉は飛散開始と認められる前から、わずかな量が飛び始めます。2月上旬に飛散開始が予測される地域では、1月のうちから花粉対策を始めるとよいでしょう。



4. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏（6月～8月）の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」の協力のもとで、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

